

## 「総合郷土研究所所蔵考古遺物の整理・公開」事業の進捗状況について

廣瀬憲雄（事業責任者）

### ●業務概要

本事業は、愛知大学総合郷土研究所が保管する考古遺物の整理と公開のための業務である。作業内容は、遺物の混在状態を可能な限り解消し、デジタルデータによる台帳整備を進めることである。現在の管理体制が抱える様々な問題点を解消するため、次の点に留意して作業を進めた。

- 1、混在した遺物を遺跡ごとに分けること。
- 2、保管場所を一定に保つこと。
- 3、取り出した遺物を元のコンテナや場所に戻しやすいようにすること。
- 4、外部からの問い合わせに回答できるようにすること。

まず台帳カードには、資料名のあとに報告書の図版番号を入れること<sup>(注)</sup>、保管場所を図で示すこと、コンテナの名称・番号を明記することとした。また、遺物を入れたチャック付きポリ袋にも台帳の一部（遺跡名・遺物の写真・保管場所・コンテナの名称と番号の部分）を印刷した札を同封し、紛失を防ぎ、

出したらもとの場所に戻せるようにした。

### ●今年度の成果

宮西遺跡（田原市）・雁合遺跡（田原市）・籠田遺跡（田原市）・向山5号墳（田原市）・地部道1号墳（田原市）・坊入遺跡（豊川市）・徳台遺跡（豊川市）・一里山古窯（豊橋市）・奥田古窯（豊橋市）・松ヶ谷古窯（豊橋市）・東籠田古窯（豊橋市）・豊清古窯（豊橋市）・水川古窯（田原市）・踏分古窯（田原市）・中田古窯（豊橋市）・山田古窯（田原市）・新見平戸古窯（田原市）・営林署西（豊橋市）の遺物について整理が済んでいる（ただし、他のコンテナに混在している遺物が後から発見される可能性はある）。コンテナ数としては51箱、作成カード数は290枚（2015年10月現在）である。

（注）：報告書とは、基本的には『愛知大学総合郷土研究所紀要』・『愛知大学文学論叢』に掲載されたものであるが、学外が発行した媒体でも、当研究所が保管している資料が紹介されているものについては、可能な限り図版と突き合わせをするように努めた。


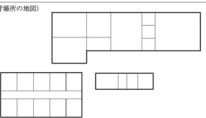
(遺跡名/所在地) <small>徳台遺跡</small> 豊川市東上町	(写真など) 
(資料名) 把手付壺(土師器) <small>(小林報告の第4図の7)</small>	(保管場所の地図) 
(資料の由来・注記など) 「T-2」と注記あり 昭和20年代前半(終戦後)に開墾地から出土した土器を、鈴木正徳氏が徳土研に寄贈	
(寸法) 高さ: 23.4cm	(コンテナ番号) 徳台遺跡-2
<small>この調査の作成者: 2015年度 森村亮子 愛知大学総合郷土研究所</small>	

写真1：遺物台帳

遺跡名	資料名	資料の由来・注記など	法量	写真	コンテナ番号	カード番号
徳台遺跡	把手付壺(土師器) 小林報告の第4図の7)	「T-2」と注記あり	高さ: 23.4cm		徳台遺跡 1/6	徳台遺跡-2

写真2：資料に同封する札